

甲府市における紫外線強度の状況

- 解析プログラムの作成と近年の傾向
(平成 18 年度 1 ヶ年)

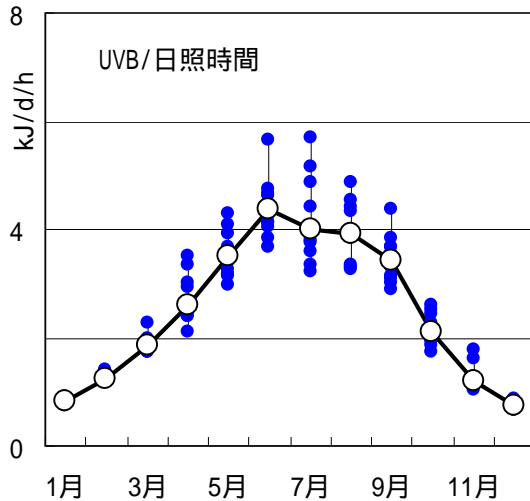


図 1 UVB/日照時間の月平均値の分布

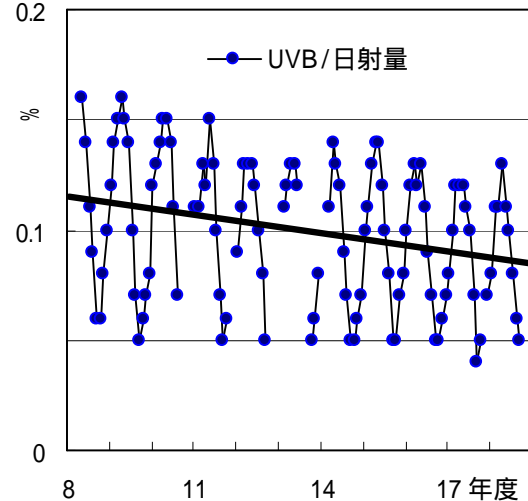


図 2 UVB/日射量の月平均値の推移

甲府市内で測定した平成 8～18 年度の紫外線強度 (UVA と UVB) と日射量の測定値について、

- 1 測定値を保存や提供が容易なことにすること、
 - 2 これを用いて甲府における紫外線強度の特徴や経年推移を明らかにすること、
- を目的に、研究を行った。

その結果、1 については 解析プログラムの作成により、1 時間値の月報作成が可能になって目的を達することができた。また 2 については、次の結果が得られた。

1) この期間の最大値は、日射量 30,000 kJ/m²/日 (25 ℃ の水温を 30 ℃ 上げる熱量)、UVA 1,500 kJ/m²/日 (日射量の 1/20)、UVB 40 kJ/m²/日 (同 1/1000) であった。月平均値の推移は、北海道と沖縄の中間にあり、同緯度のつくばによく似ていた。

2) UVA と UVB、日射量の間には強い正の相関関係があった。また、つくば (気象庁) との比較では、 $[\text{甲府の UVB}] = [\text{つくばの UVB}] \times 1.03$ の関係にあり、甲府で長期間欠測を生じた場合つくばの UVB から甲府の UVA や UVB、日射量を推定できることがわかった。

3) 紫外線は 7、8 月が最も強かった。しかし、紫外線強度を日照時間で除した値 (単位時間あたりの紫外線強度) は 6 月が最も強く (図 1)、健康への影響を考えた場合、梅雨の晴れ間の紫外線にも十分に気をつける必要があった。

4) 8 年度からの経年推移には、UVB に減少傾向が見られた。また紫外線強度を日射量で除した値 (単位日射量あたりの紫外線強度 %) の推移には明らかな減少傾向が見られ (図 2)、今後の推移を見守る必要があった。